

第 61 回市民ふれあいトーク 【一緒に考える このまちの地域力】

日時 平成 27 年 5 月 30 日 14 : 00 ~ 15 : 30

場所 玉島黒崎公民館

要約版

市長

皆さんこんにちは。今日は土曜日のそれぞれにお忙しい中、市民ふれあいトークに参加いただき誠にありがとうございます。地域ごとの市民ふれあいトークは何年かに 1 回ずつ地域の公民館の方に私が参りまして、市民の皆さんとのふれあいトーク、お話を色々お伺いし地域の発展、また市の全体についてのご意見をお伺いしたりして、市政の方に反映をしていきたいということで実施をしているものであります。

ここ 2 年ほどは子育て支援、環境のことだとか、色々テーマごとの分をしてきたわけですが、今日は 61 回目の開催ということでよろしくお願ひします。今日は「一緒に考える このまちの地域力」として、この玉島黒崎地区、南浦、沙美、黒崎、勇崎、南小学校区域の地域の中で皆さんが地域のことについて、また倉敷市のことについて、どういう考えを持っていらっしゃるかということをお伺いをできればと思っております。

最初に私の方から 5 分か 10 分ぐらい今の倉敷市の状況などについてお話をさせていただければと思っております。ちなみに今日 5 月 30 日、今日は実は全国の消費者の日という日でございます。5 月は消費者月間ということで、全国の中でも色んな消費者の方が自分の 1 日の生活のこと、また、最近何とか詐欺とかが多いわけでご覧になって、そういうことに注意をしていこうということで啓発をする日でございます。実は先日消費者庁から電話がかかって来て、東京で消費者月間の大きな行事をするので倉敷市から市長が来て、消費者月間のシンポジウムに参加をしてくださいというお話がございまして出てまいりました。何日か前に新聞にも少し出たのを見られた方もいらっしゃると思うんですが、倉敷市の消費生活学級、各学区で皆さんが活動していただいていることが非常に全国の参考になるということで、それを発表してくださいということで、消費生活学級の活動状況とか、についてお話をしてきたところであります。

もう 1 点、今年平成 27 年度は地方創生元年というふうに全国的に言われております。昨年 9 月から安倍総理や特に地方創生のことに力を入れると発表をされて、そのきっかけが全国の人口が今減ってきていると、今日本の人口が 1 億 2 千 8 百万人ぐらいですかね。それが今から 50 年ほどしたらこの人口が 8 千万人ぐらいに減るんじゃないか、今の調子ですと。それでは日本が成り立っていかないということで、それを皆で対策を考えましょうと、去年の 9 月から色々な取り組みを行うための会を開催をされました。

それで倉敷市から、全国で 12 人の外部有識者が来るようにということをおっしゃったんですが、私が全国に市町村の代表ということでお話をいただきまして、今毎月 1 回東京の方で地方創生に関するいろんな意見を申し上げる会に参加をさせていただいております。なぜかと言いますと、倉敷市の人口は全国の中でもまだ増えているということで、日本の人口は 2008 年から減っておりますけれども、倉敷市の人口はまだ増えています。1 年間に 500 人とか 700 人とか年によって自然増も多いし、倉敷市に転入してくる方も多い。どうやったらそういうことが、勿論市内全般がそういうことではないんですけど、できるのかということをおっしゃりたいということで、今意見を言っているところでございます。

それから倉敷市の全般的な状況の中ですけれど、今この玉島地区では県道、幻の県道の方はまだ繋がっていないわけですが、唐船の方から県道 倉敷～笠岡線の方は途中の所まで、この前、玉島の唐船の所から金光の所まで開通し、もうちょっと笠岡まで行きますと、混みにくくなるかと思うんですが、少し解消してきたんじゃないかと感じられていると思います。

それから当地区におきましては、バスの便数が平成24年10月に井笠鉄道さんがバスを急に止められるということになり、今非常に便数が減り大変皆さんにご迷惑をかけているんですが、なんとかその沿線の市と町で協力をして、両備さんが井笠バスカンパニーを作って公共団体の助成金でバスを走らせていただいているということもあり、なかなか便数など難しいところもあるんですけど、今の状況はバスが一時止っていた時よりは、何とか一応復活したという状況があります。

それから今日は、3年か4年前に、この公民館の方でふれあいトークをした時には東日本大震災が起こった直後ぐらいで、市民の皆さんから防災への意見を非常に多くいただいておりました、これは津波のハザードマップ、このマップで皆さんのご家庭の方に配られていると思うんですが、見たことがあるように思う方。はいありがとうございます。大体皆さん見ていただいておりますね。それぞれのマップの所に避難所とかの海拔の表示がしております。この公民館の所が何メートルとか、沙美小学校が、この黒崎公民館は海拔2.8メートルです。それから沙美小学校の所の地面は海拔が2.6メートルということは、我々が今一番心配をしております南海トラフの地震ですね、去年の冬に政府の方から発表した分では地震の発生確率が30年以内にこれまで発生した確率が38%だったんですけど、それが2%上がりまして40%になりました。この30%、40%というのは、30年以内ですけどこれから何か月後かに起こるかもしれません。あと10年後に起こるかもしれませんし、分かりません。でも皆さん先日山口永良部島が噴火をしたり、また御岳山の噴火があったり、地震が結構最近日本全体で多くなっているような気がしていらっしゃるかと思いますけれど、私は結構近づいてきているんじゃないかと感じております。とは言うものの南海トラフの地震が起きた時の今計算されているものでは、この沿岸部の所では、大体3メートルぐらいです。3時間ぐらいして3.2メートルぐらいの津波が来るといことが今計算で言われております。当地区は前に海岸、後ろに急な山ということでございますので、沙美やこの公民館はちょっと海拔が低いということですので、3時間ありますので皆さん山手の方に逃げさせていただき、声をかけてあって逃げさせていただくことが一番必要になって来るかと思っております。

それから、各地域の浸水対策につきましても16年、23年等の非常に大きかった台風災害のポンプの改修などに努めているところでございますけれど、なかなか大きな改修が進むのがそう簡単には進んでいないということもありまして、それぞれの川や樋門の管理などを地元の皆さん、また水利委員の方をお願いをしてやっていただいているということございまして、少しでも市としては災害の被害を食い止めて少なくなるようにというふうに努力をしていきたいというふうに思っております。

またこの玉島地区全般についてですけれど、ご存知のように玉島ハーバーアイランドの方に皆さんよく御存じでいらっしゃいますけれど、日本エアロフォージという世界でも大変最先端の飛行機の部品の会社があります。それから今玉島のハーバーアイランドのこちらあたりの地区の方にJAさんの大きな会社の3社が来られるということが決まって

おり、多くの方が関西のあたりから引っ越してこられるというふうに伺っております、西日本の中でも有数の食糧コンビナートがこの玉島ハーバーアイランドにあと3年ぐらいですかね、工場とかサイロとかを建てられるんですけど、それがここにできてくるということで雇用の方も新しく生まれたりしていくという予定になっていると伺っております。

また、玉島地区全般の中では今商店街の皆さんが、昭和の街玉島ということで、お手元の方にオレンジ色のパンフレットをお持ちをされているんじゃないかと思えますけれど、今非常に昭和の街、地域の魅力を出していくということが全国の中でも先ほど申し上げたけれども地方創生ということで色々地域が工夫をして取組をしていただくということが一番大切な時代となっております。商店街の皆さんも頑張ってくださいと伺いますし、またそれを応援をしていくという意味で、今度実は倉敷市で使えますプレミアム商品券というのを発行をする予定にしております。6月1日から6月19日まで申込期間となる予定なんですけど、このプレミアム商品券のことについて自分はちょっと聞いたことがあるという方がどのくらいいらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。6割くらいいらっしゃいます。もうちょっとしたら新聞の方にも広告を出しますけれど、1万円で1万2千円分の、1万円で千円の券が12枚、それから商店街とかで使っていただく場合には1万円で千円の券が13枚付いて来て買い物ができるというのを発行する予定になってまして、6月1日から6月19日まで申し込みを市のホームページと市内の金融機関の方で取り扱っていただき、申し込みをして市内の中で人数が買える方よりも多くなった場合には一部抽選が出てくるんですけど何枚ずつ買えますよということで、そこに券を取りに来ていただいてということになります。7月の末から12月いっぱいまで市内の色々な買い物店とかで使っていただける予定となります。使えるところにはシールを店の表に出していくということになりますので、そういうことなどもしていきたいと思っております。ちょっと私がいしゃべる時間が長くなっておりますので、そろそろ止めたいと思えます。

ではこの玉島の黒崎、沙美、南浦、南小学校区、日本最初の海水浴場、本性院の雨笠の松もですね、市の重要文化財ということで本当に特色のある地域でもっともっと多くの方に知っていただきたいと思っておりますけれども、是非皆さんの方からこの地域の魅力、また地域がもっと良くなるようにということでご意見を頂ければありがたいと思っておりますので、宜しくお願ひしたいと思っております。それでは意見を言っていただけの方、手を挙げていただければ。

参加者 A さん

本題に入る前に、今のお話で、お店の人でお店がそれを受け付けようと思ったら、「手続きがパソコンじゃないとできんので、わしはパソコンをようせんので困っとる。」ということでその点の配慮をお願いします。

市長

良いことを言っていただきました。お店の方が申し込みをしていただかないと、この店で使えるというのができませんので。パソコンじゃなくてもできますし、市役所の方に申込書を取りに来ていただいて郵送でできます。はい、ありがとうございました。

参加者 A さん 1

先ほど市長さんがおっしゃった公共交通に関しての私の考え方と市長さんのご存念を伺いたいと思います。先ほどハザードマップで出ました交通機関は、黒崎及び柏島地区では海岸通りを通っているわけです。ですから屋守全体、元浜、唐船、柏島の西部地区というのはバス路線まで少なくとも2キロ、遠い所では3キロぐらい、しかもJRへ行こうとすると近い所で3キロ、遠い所で5キロ、言ったら陸の孤島になつとるわけです。聞くところによると浅口市は、旧金光町は上竹、下竹、それからあの辺全体、佐方とか大谷、それから鴨方町は松谷からあっちのほう全体、あるいは寄島町についても全体をして、全ての道はローマじゃないですけど、全てのバスは金光病院へ行くと、途中色んなところを回るんだということを聞いております。先ほどご説明有りましてご努力は感謝いたしますけれども、今お願い申し上げたいのは、該当地区以外の今申し上げた地区以外の人は大変です。それで、昨晚テレビでやっていたけれども、65歳以上の方が免許証を返納しようという運動があると、何回も何回も聞きますけれど、我々はできないんです。歩いて2キロと言いますと、我々の足では20分ではとても行けません。30分かかります。30分でもしんどいです。だから結局、できるなら自分で運転していこうということになる。いわゆる倉敷市のチベットのような感じです。そういうことで今後倉敷市の未来について、お年寄りが生きられるだけは生きていく、無理して長生きしようというのではなく生きていけるだけというふうにできるようにしていただきたいと思いますので、市長さんのご存念を伺いたいなど。聞くところによると新倉敷から矢掛へ行くか、あの辺も無くなっているように聞いていますし、要するに玉島地区の北西部についてどういうふうにお考えになれるのか、地域住民でやるという問題もあるんですが、一応のご存念を伺って皆さんにお話ししたいなと思って質問しました。

市長

今公共交通についてご質問をいただきまして、ありがとうございます。今のところ、今言っていたような海岸通り沿いの道については、何とか一応存続することができまして、各市町で一緒に何とかしてということをやっているんですけど、先ほど言われましたように新倉の方から矢掛の方も県が補助を止めまして、それも廃止ということになりまして、それで全般的にバス路線ですけれども乗る方が少ないということで、勿論公共のバスではないわけですので民間のバス会社の方が乗る人が少なくなったら、路線を止めざるを得ないと言って来るというのが全般的な現状になっています。

もちろん、市としてはバス会社の方に補助金を市の方から出しまして、路線の継続等についてをお願いをして継続していただいている、これなんかもそうですけど、継続してもらえない路線もあるんですけど、なかなか路線の継続が難しいところも多いというのが全般的な現状になっています。

その時に一つ、いくつかの地域で成功されているのがコミュニティタクシーという地域の小さい公共交通ということで、その公共交通にはコミュニティタクシーの方には勿論市の方からも助成をします。ただバスとして定期路線での運行というのは難しいかと思うんですが、タクシーの大きいような分に地域の皆さんが町内からもう少し取り組みをする所と一緒に少しお金を出していただく必要があるのと、それから市の方から多くの部分については補助が出るのと、それと乗る方の運賃でやって運行するというのが市の中でも何地区がありまして、まあまあ成功している所もあるかと思っております。

これからはどうしても、こういうコミュニティタクシーとか、やはり市全体で高齢化率が高くなってきますので、そういうのを色んな所で導入していくというのが全国で大体そういうふうになってきておりますので、そういうご相談を地域ごとにさせていただく必要があるんじゃないかなと思っております。

決して玉島のチベットとは思っておりませんが、一方で確かに高齢化率も高くて、より公共交通にお困りの部分も多いと思っておりますので、市としては皆さんと、そういう面からの色んな相談とかを是非させていただきたいなと思っているのが現状でございます。

参加者 B さん

先程市長さんから沙美の海水浴場の話がありました。非常に歴史のある海水浴場なんですけど、折角良い海水浴場があってもPRをしっかりといただかないと、どうもそこらへんが不足しているんじゃないかと。私、倉敷のパンフレット、他にも色々あると思うんですが沙美の海水浴場が載ってないんですね。

それからあと、玉島地区の中に沙美の海水浴場がありません。玉島歩きのこのパンフレット、玉島散策マップ、海水浴場のことが載ってないんですね。綺麗な海水浴場なんで、是非こういったもので写真入りでPRしていただきたい。家族連れが来て良い所だなと、こんなところに住みたいなと言えば、また子供も増えてくるんじゃないかと思えます。しっかりPRの方をお願いしたいなと思えます。

それから、この中に地図が載っているんですが、途中で倉敷市の沙美とか南浦が切れたりしているんです。せめて南浦までは載せていただきたいと思えます。

参加者 C さん

東京へ40年ぐらい行って、帰ってきて5、6年になるんですけど、ライフラインが村始まって以来、全然変わってないんです。だから海水浴場も廃れる一方、道は狭いまま、台風が来ると小原が浸かる。寄島が崖崩れになったら陸の孤島、若者が増えない。道ができれば若い子が来ます。高齢化社会もだんだんなくなってきます。医療も来るでしょう。ライフラインが全てなんです。これもう100年も変わってない。小原の所が狭いでしょ。昔はそれでもね、海水浴場は沙美小学校を利用して駐車場を無料にしてすごく今おっしゃったように来てたんです。もう衰退の一步。東なんかは1件しかやっていません。道路を走ってみたら、店の前を車がぼんぼんぼんぼん走るんですよ。それでそのおばちゃんは市に言ったらしいですけど、もうけんもほろろに断られたらしいです。あんな車が走る所に誰が子供を遊ばせますか。そういうことも含めて、今付加価値があるんですから、海水浴場という。それを何で活かそうとしないかと。プラスをすれば若い人も来るし高齢化も問題なくいってくるし、火災も道路が広がれば、人災、防災、すべて解決するんです。もうライフラインが全てです。ここを100年も何も考えてないのは無作為というしかないですね。東京では税金をたくさん納めていました。惜しいとは全然思いません。こちらは税金は少ないんですけど非常に惜しいと思えます。というのは何もやってくれないから。それが多分皆さんの意見だと思えます。ライフラインも直すのは大変だと思えます。この辺の人は土地に執着してますから、それで家が建っているからね。前からがだめだったら横、後ろがあるんですから、そういう所は頭が良い人ばかり集まっているんですから、悪知恵を働かすんじゃなくて国民の目線に会った知恵を働かせてほしいんです。そうやっ

て是非ライフラインを真剣に考えてほしいです。チボリ公園がああいうことをやって潰してああいうお金があれば、今付加価値がある沙美を活かすことが十分できたんです。

それともう一つ、この上に山がありますよね。あそこが沙美アルプスと言って、今俗にいう山ガールにすごく人気があるんです。今健康年齢、男性が71、女性が74ですよね。それで健康保険料が赤字になって税金から投入してますよね。やはり予防医学だと思っんですよ。だからアメリカの方では80になっても90になっても筋トレをすれば筋肉が付くという結果が発表されています。だから山をです、大したお金を使わなくていいんです。ちょっと休憩所をつくるとか、あと望遠鏡を作るとか、一番いいのはAEDを何カ所か置いてもらえればみんな安心して登れます。これからは健康年齢をいかに維持するか、そのためには皆さん個人が自分の健康と向き合っ、お世話になるんじゃなくてみんな努力してやらないと、今人口構成が逆三角形になってますよね、もう夕張みたいになってしましますよ、そのうち、税金は少ないし・・そういうことをみても。

もう一点あるんだけど、あと時間があつたら市長の方へ連絡させていただきます。そういうことで山の整備とライフライン、以上です。

参加者Dさん

教育のことについて、市長さん、沙美の小学校の児童数が今何名かご存知ですかね。(市長：30何名?)35名です。35名ですけれども倉敷市の中でこれでもワーストからしたら5番目です。琴浦北とか柳井原とか霞丘とか南浦とか、南浦と沙美と共通したことなんですけど、そこのテーマの地域力と分らなくなりましたけれど、一般の方、私も含めて統合すると、地域に学校がなくなると地域力は絶対に弱くなってくると思います。経済的なことを考えると、教員も少なくても統合した方がずっと良いと思いますけれども、今教育委員会が改革して市長さんも教育委員会と同等の意見を持っていると思いますから、統合ということは当分の間は到底考えてないという明言をいただけたらありがたいなことと、今の沙美小学校の校長先生は女性の校長先生でブルドーザーと言われるぐらい色々改革やって来ておられます。

今小規模校の学校では、小学校なりに本当に精一杯やっておりますけれども、県からくれる教員は限られてますから是非小さな学校に市職員の教員を増やして、小さなところにも力を注いでいただいて統合は20年、30年は考えてないというご検討をいただきたいということと、もう一つ市長さんの考え方をこれは個人的な考えですけど、県教委が非常に学力を中心に「よう頑張った。100万円やる」というような教育をお金の換算というか、玉野市長さんがいち早く反対しました。倉敷市はそれにはあまりと思いますが、教育長さんはどうのお考えでしょうかということをご説明ください。

市長

お答えをするときにどの時点で、どのようにするのか非常に悩むところですが、じゃあ次をお願いします。

参加者Eさん

玉島柏台のEです。今日のテーマに合っているかどうかわからないんですが、選挙投票率の向上についてちょっと提案したいんですが。これは投票に来たら地域振興券を、例え

ば500円とか、地域の物産が当たるとなるとか、また先ほど言われましたプレミアム商品券とかをですね、いくらかするとか、そのようなことはできないんでしょうかね。まあ財源が問題となるでしょうけど、皆が知恵を絞ってやったら投票率アップにつながると思いますけれど。

それから、さっき沙美アルプスのことが出ましたけど、あれは2005年に僕らの山仲間が初めて歩いて道標をつけたんですけど、あれから10年たって道案内も消えてですね、後をせんといけんと思っているんですけども、だれも協力してくれる者もないし、どこに言っていないかもわからないので、まあ観光課へ行けばいいのかなあと。

市長

私は沙美アルプスは歩いてないんですが、何分くらいで歩けるんですか？

参加者Eさん

小原の勇崎の公園からずっと南浦へ行行って、それから寄島の「あぶら峠」までで、だいたい4時間くらいで歩けると思います。地図は作っているんですが。

市長

それは、公表されているんですか？

参加者Eさん

公表はしていないと思います。岡山百選で、あれはしているんですが・・・、2005年に僕らが名前も付けたんですけど。

それからもう1点。小原峠からまっすぐ一本南浦まで道をつければ、恒久的な対策になるんじゃないかと思いますけど。以上です。

市長

その沙美アルプスを歩くのは、若い人から年配の人まで歩きやすい感じなんですか。

(Aさん：大丈夫です。) ありがとうございました。

参加者Fさん

南浦の愛育委員をしておりますFです。先ほど沙美アルプスが出たんですが、最近の南浦では愛育委員会ではウォーキングマップを作りました。その時に南浦アルプスという名前を利用させてもらって結構評判で、沙美だけに限らず、南浦もあわせて。(市長：別のものですか?) いえ、つながっております。で、標識というか矢印をつけたりしております。南浦には小学生が19人おまして、少ないんです。

それともう一つなんですけれど、愛育委員会では検診を受けることを重点に活動しているんですけども、女性のがん検診を、ある病院の協力を得て、往復車を出していただいているんです。受診率がたくさんはあがないんですが、10回で30人くらい行っただけなんですけれど。デイサービスの送り迎えの車がありますね。その車の空いてる時間帯を利用させてもらって、協力を得て行かせてもらっているんですけども、一般の人が病院に

行くときにもデイケアの車が空いているときに定期的に送り迎えをするという、そういう方法を取られているところもあるというのを聞いたんですけども・・・、難しいですね。そういうことがあれば足のないお年寄りにとってはとっても助かるんじゃないかと思うんですけど、お願いしたいと思います。

市長

はい、ありがとうございます。

参加者Gさん

倉敷老松のGと申します。今日2つあったんですけど、沙美の話をしたと思います。私は中学高校の時、今でいう中高一貫校へ行き、臨海学校で沙美の海岸へ来たんですが、幼かったんではっきり覚えてなかったんですが、りっぱな海岸だなあという印象が非常に強かったです。ところが、友達が皆それぞれ東京、大阪へ出て行って、年も年なんで東京などから帰ってくるんですが、「沙美の海水浴場は最近どねえになっとんかな。」とか話に出て、「いや、今もう無えんじゃねえかな、渋川の方に行きよんじゃあねんか。」という話になって。地元の間人ですらそんな状態で。我々くらいの年齢になると、思い出に浸る心境なんです。で、今の子どもたちがやっぱり我々の年代になって、仮に東京や大阪の大学に出て行ったとしても、何人かは帰ってくると思うんですよ。その時に故郷が、自分が過ごしたところが不毛化してたら非常に残念だと思うんでね。この町の地域力を高めるためには、年齢がいくつになっても故郷を過ごしたところがやっぱり思い出になるような地域にしていかなと思うんです。これはさっきもどなたか言われたように、PRも足りないし、市ももうちょっと力を入れて渋川並みに対抗できるように知名度を上げていってほしいと思います。

もう一つ。今日の山陽新聞に市長が出ています、カンザスシティ。今回は短大の方がメインで出ていましたけど、あれは本来は高校生を、市役所から何名か送っているんですか？

市長

あの、倉敷市とアメリカのカンザスシティ市が姉妹都市でもう43年経ってますので、毎年お互いの中学生とか高校生の交流をしているんですね。

参加者Gさん

中学、高校と両方あるわけですね。今回大学生が単位が取れるという事ですね。わかりました。まあ、これは我々は新入社員で会社に入って2年目か3年したところに研修制度というのがあって、海外に行くかもしくは自衛隊の富士山の麓です、鍛えられるのがね。若いときには、しっかり鍛えるのがいいと思う。そういう意味で海外の知識を身に着けることも大事ですけど、市の方も若い人にそういうチャンスを与える風にしたらどうですか。倉敷市が発展するためにもよろしくお願いします。

参加者Hさん

黒崎のHです。先ほどからみなさんがインフラの整備とか色んな指摘をされていますけども、常々感じていることがございますので、市長さんはどのようなご存念かお伺いした

と思います。それはちょうどですね、今日のテーマの裏側に「市民憲章」が書いてあると思います。この中に抽象的にいっぱいいいことが書いてある。まあ憲法みたいなものですから。その中にですね、「青少年には夢を、老人には安らぎを・・・」というのがありますよね。これが抽象的すぎて、どういう風に政策の中にこれが取り込まれてきているのか、我々には全然見えないんですよ。それを例えば、こういう政策の時にはこの憲章を生かして、こういう風なことを具体的にやっていますとかいうのが見える形で、憲章が活かせる形で。まあ、違反したらわかるでしょう。だけど、これが生かせる形のものがどんな風に行われているのかお伺いしたいと思います。もっと聞きたいことがあるんですが、みなさんの意見がいろいろあると思いますので次に回します。

参加者Iさん

黒崎のIと申します。以前には運動のことで、市長さんにお世話になってありがとうございました。それで、今までの意見、申し込んだ時点からの私の気持ちを申し上げたいのは、非常に水を差すようですが、市長さんが色々な細かいことに気を配られるのは大賛成です。だけど、市長という立場に立たれて、我々6年間運動してきたことでもね、なんか、もう行き届きませんけどたくさん仕事があるので、という切ないような回答いただいて辛抱したときに、ああ、それは無理ないと私は思いました。だけど、その時点でね、今までの申し込んだときでもね。ものすごく、これ何って言う位、どういう趣旨をどういう具合に訴えるのかということをしつこくね。まあ、聞く側にすればいい回答しようと思ってそう聞かれてるんだらうとは思いましたが、非常にこの会は何って。もっと、地域のことを心安く打ち解けて、という会のつもりが、えらくこう構えたような感じがして。果たしてどういう質問がでるのかなあとって聞かせていただきましたけど。

初めに市長さんが色々皆に説明されたことで、がっかりしたことは、市長さん自身のポジションを、ご自分どう考えておられるのか、自分の部下が何人おられて、どんだけの部署の者がどれだけのことを深く追求していったかということを経営するだけでもね。そら、ある人に聞きました。5分もじっとしておれないくらい過密なあれをやっておられますと言われたんですけど。勘違いもええとこと違いますか。市長さん自身は違う意味でどんと構えて、各部署の偉い人というのか、小走りをする人が本当に意味のあるあれをしているかどうかを、それを目ざとく指導するのがいちばんの仕事やと私は思うんです。それが、市の広報に書いてあるようなことを長々と貴重な時間を割いて説明して、それで申し込むときにはどんなことをどういう具合に誰やいうんで調べまくって、もう見当違いもええとこだし時間の無駄使い。それじゃあ、どんなに忙しくてもうまくいかないと思います。市長さん自身、まだやっぱりそういう職業を次の代にも活かそうとなさるんならば、やっぱり考え方を変えて、本当の部署、部署、部署の人間がいかに有効に、いかに大切なことを見逃さずにやってるのかを集約してこそ、仕事のあれで、そんな小さいことをしてもね、どれだけ実行できますか。私はそれが聞きたいです。水差すようで悪いですけど。

それと、年いってきました。やっぱり高齢者のことも考えてほしいですけど、年より自身ももっと考えて、自分の力で生きるといことも考えないといけない。そういうことを大きな意味でねPRして考えていかないと、こちょこちょしたことは解決していかないと私は思います。申し訳ありません。

市長

はい、ありがとうございます。

参加者 J さん

沙美の J です。今さっき C さんが言われた、いわゆるライフライン。第一に、一点だけお願いしたいのは、下水道が沙美地域までに来るのに何年位かかるんでしょうか。それとも全然計画がないんですかね。今言われたように海水浴場を持っている地域で下水道が完備されていないというのは非常にまずいじゃないですか。このまま、下水が海に出てしまいますよね。ほとんど生活排水はおそらく浄化されずに、そのまま出ているのが現状じゃないかと思うんですが、どうなんですよ。これは、今東京におられた方、こっちに帰られて、非常に疲弊していると感じたというのはね、おそらく汲み取りみたいな、私のところにも来てくださるとる方、大阪の生まれの方なんですけど、あの匂いすらわからないですわ、大阪地域から来られた人は、その綺麗な所で生活されている。ところがこの地域の人それが当たり前ようになってしまっている。これはやっぱり、同じ倉敷市に生活していくんだったら、玉島の街のなかに行けば、というふうになってしまうと思うんです。やっぱり若い人を迎えるためにはそういうことからコツコツやっていかんと。一挙に何もかもやるっていったってできんと思うんで、下水道だけはいつ頃からできるかということを実際に真剣に考えてほしいですね。その一点だけです。

それと補足で、これは私の思いつきのようなものなんですけど、この地域は塩田がありましたわね、ずっと。僕らが小学校 5 年生くらいまでは入浜式の塩田がありました。この塩田の地域は非常に天候がいい。だから、この地域の空き地をエコタウンとして発電所をね、ソーラーを。こりゃまた再生もできるし。太陽光発電。えっと、市長、どこ。なんだったかな。(何ですか？児島の太陽光発電ですか？) ああいうようなこともいいと思うんですけど、この地域もね、塩田があった地域ですし、非常に日照時間長いし、これもおもしろいんじゃないかと思うんです。これはまあ、私の思いつきだけで言ったようなものなんですけど、下水道は本当に考えてほしい。そう思います。

市長

はい、ありがとうございます。

参加者 K さん

沙美学区で高齢者のふれあいサロンを開いております と申します。今日はそのことに関して質問させていただきます。沙美の高齢化率ってご存知のように 43% で、人数にしますと約 560 名位の高齢者が住まっています。

その中で今、健康長寿課の支援事業で 4カ所の高齢者ふれあいサロンを開いておりますが、全部これは自宅開放なんです。よその地域と交流会でお話しますと、大抵公会堂であるとか、憩の家であるとか、公共の場を使ってされております。自宅を開放してやっておりますと、狭いために、どの地域からも来てくださいますとか、男性も女性もどうぞというわけにいかなくて、こじんまりと 10 人が 15、6 人の女性高齢者だけが月 1 回のふれあいサロンに集まっている、そういう状況なんですけども。これから介護保険がここで改正

になりましたですね。おいおい、私の勝手な推測なんですが、デイサービスへでかけるお金もだんだんと自費負担が増えてくると思うんです。そうしたときに、引きこもりとか要支援者、要介護者を減らすためには、やはり地域で皆で要介護にならないように支え合いましょという傾向になってくると思うんです。そうしたときに公の場所がないというのは非常に活動に不都合で。そうかといって、どんどん増えていってる地域じゃないのに今更公会堂を建ててくださいというわけにはいかないと思うんで、年寄りが移動できるのは300mは厳しいかもしれませんね、高齢者は。そういう地域に空き家があったところを市が借り上げて。ま、市が借り上げられてもいいし、町が借り上げてもいいんですが、要是市がかんだ形で、ご希望があるときは返しますよ、という形で活用を考えていただくと、空き家がひどくなるのを防ぐこともできますし、月1回じゃなくて、もっと頻繁に高齢者が集まって話し合ったり活動ができるんじゃないかと思うんで、市の意向を聞かせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

市長

今のふれあいサロンの4カ所は全部皆さんの自宅ですか？そうですか。わかりました。

参加者Lさん

こんにちは。私は児島小学校6年のLといいます。今日は市長にどうしても伝えたいことがあったので、児島から参加させていただきました。私は何年か前から子ども観光大使という活動をしています。玉島の醤油の蔵を見学したり、日生でカキオコの作り方を学んだりなどの、さまざまな活動をしてきました。7月24日に子ども観光大使の第1回全国大会が栃木県で開催されます。そこに私は岡山県代表として参加することになりました。

その集まった中から6人だけ3分間プレゼンをするのですが、そのチャンスを掴みました。3分間でできるだけ地元のことをPRするにはどうすればいいか考え、児島のデニム生地で浴衣、畳ぶちで帯を作り、それを着てせいっぱい岡山県の魅力を多くの人に伝えようと思います。沙美海岸のアピールもしてきます。

せっかくなので、市長のメッセージを伝えたいのですが、何かありますか。ぜひお願いします。

市長

はい。

参加者Mさん

沙美中浜町内会の者です。これは私が勝手にしているかもしれないんですけど、沙美は市街地調整区域に指定されてると思うんですよ。それで今人口がどんどん減って、一人住まいの家もいっぱいあります。そんな中でよその人が沙美に住んでやろうと、なかなか入って来れるような状態ではないと思います。市街地調整区域と言うのは外せないんでしょうか？まあ反対の人もおるとわからんですけど。それが一つ。

市長

はい、では次の方どうぞ。

参加者 N さん

玉島黒崎屋守の者です。最近の新聞から 2 点ほどお尋ねをいたします。まず県外の企業の本社機能の移転ですか。そういうところに援助をしたいということですが、現在規模の大小によって選ぶというんでしょうか、そういうのもあるんでしょうね。そういうことで、現在の申し込み状況をお聞きしたい。

2 点目はこれも山陽新聞に出てましたが、倉敷市を訪ねて旅行で観光に来られて、海外の人が一泊をしますと、3 千円から 4 千円、旅行社に援助をします。旅行社に援助をすることは、海外の人が来た場合に、旅行客にもメリットがあると。それからもう一つは、国内の旅行者が倉敷に来た場合には、1 泊につき 2 千円、旅行社に援助をします。これも旅行者にメリットがあることですから。で、沙美に旅行に来られる方には、もっと 5 千円ぐらい出してあげていただくと、沙美に御客がたくさん来るんじゃないかということで、以上 2 点ですね。本社機能、まあウィン・ウインの関係があるんだと思いますが、本社機能を倉敷に移転すると、企業にどういうメリットがあるのか。倉敷市にどういうメリットがあるのか。観光は今言った通りで、沙美地区には旅行者にたくさん出してあげてください。以上でございます。

市長

はい、ありがとうございました。では、後ろの方お願いします。

参加者 O さん

実は、私は町内会の会長をやっとるんですが、現在市長さんのお手元に資料をお渡ししてると思うんですが、この沙美地区の町内会と言うのは、13 の町内会があるわけです。で、それをまとめて、いかにしてこの地域の進歩を、あるいは高齢者の健康管理、そういったものに対応していけばいいかということ、13 町内会が集まって、いろいろ検討してる状況です。で、一つお願いがあるのは、たびたび出ておりますが、金光・沙美間の幻の県道ですね。これに取り組んでおるとい情報は聞いております。で、さっぱり姿が一般人には分からない訳です。で、私も今 80 歳です。聞くところによるともう 10 年もしたらできると。10 年すると 90 歳になるわけです。おそらくもう旅に出てると思うんですが、なので、非常に寂しいです。どうか 10 年とかかんとかわず、今、高梁川の下の方でも、結構橋が架かるのが早いんですね。で、何でこの地区にそういった幻の県道が、もう 30 年ぐらいあっち行ったりこっち行ったりしておりますけど。早くできないのか。これを一つ、市長さんの肝を銘じてのご回答をお願いします。他にまだあるんですけど、以上、よろしくをお願いします。

市長

はい、ありがとうございました。ではみなさん一つずつ質問をいただいたので、1 問ずつでお答えしたいと思うんですが。どうやって答えるべきか、非常に悩んでます。まず一番最初の方、市長があんまり細かいことに、ということでご提言をいただき、ありがとうございました。市民ふれあいトークの全般的な話ですが、私も市役所の本庁にいたり、東京に要望に行ったりして、予算を国から獲得するとかもやってるんですけど、一方で、自分としても、いろんな地区に行くと地域の皆さんの関心事が何が強いというこ

とを知りたいというのがあります。全部自分が一つ一つ対応は難しいんですけど、私と一緒に支所長とかも出ておりますので、地域の皆さんがどういうところに詳しく関心を持ったり、困ったりということを、私と一緒に聞いてくれ、取り組みにも活かしていきたいと思っておりますので、こういうことをやっております。なかなか全般的なことと細かいことと両方でできればいいんですが、一辺にはできないかもしれないんですが、なるべくどんと構えつつ詳しいこともやっていければと思っております。答えになっていないと思うんですが、頑張りたいと思っております。

沙美の海岸のことについて。何人もの皆さんに言っていただき、アルプスのことも言っていただき、ありがとうございました。沙美海岸は、日本で最初の海岸浴場で、渚百選でもありますし、私が外にいろいろ行くときに、倉敷のことをいう時には、美観地区ももちろん、沙美の海岸と、瀬戸内海の鷺羽山の国立公園のこととか、よく言って、全国にはPRしてるんですが、市内・県内の人にまだ知られていないというお話をたくさんいただきました。沙美、南浦のアルプスのこともお話をいただきまして、市民の皆さんの健康への関心が非常に高いと思っております。海水浴も、皆さん先輩の方、子どもの頃は泳いでおられたと思いますし、昔沙美で泳いだ人が、また来てみたいという方もいらっしゃると思います。トイレの整備とか、地元の方からご要望をいただいて、徐々にはやってきているんですが、PRが足りないというお声を、今日随分いただきましたので、市の方でも写真入りのPRを。それから市も沙美のいい写真を、皆さん持ってらっしゃる方もいらっしゃいますよね。貸していただいて、市のホームページ、パンフレット、たぶん県のパンフレットにも載せてもらえるんじゃないかと思っておりますので、載せてもらいつつ、地方創生の中で特色が何かというのを打ち出していくのに、健康、海水浴とかいうことは、非常に重要じゃないかと思っておりますので、もっともっとPRが足りないということですので、取り組みをしっかりと頑張りたいと思っています。

それから、投票率向上の件ですが、投票にいったときに対価を渡すというのは難しいんですが。とにかく投票率が低いというのが一番のポイントです。それを解決していくための課題として、一つには今度18歳以下にまでなるんじゃないですか。そうすると、より下がるんじゃないかと思うんです。それを防ぐために、学校での啓発もしないといけないし、今年の秋に、国から国民に個人番号が配布されます。今すぐにそれと言うわけじゃないんですが、国の方もすぐにじゃないんですが、住民票とか戸籍とか、コンビニで取ることも、あるらしい。いろんな使い方の中で、投票とか、新見市さんは電子投票とかされていますし、いろいろ今後考えていくことは大切だと思います。この前大阪は60%だったと思いますが、関心があると投票率が高いということもあるんでしょうね。投票に関心を高めていくということをやらないといけないということを強く認識しております。選挙管理委員長に私があれこれ言うのもまずいので、よく言うておくようにしたいと。

沙美の小学校のこと、南浦の小学校のことも言っていただきまして、ここで、統廃合がないと宣言してほしいとのことですが、今すぐどうこうということはないですし、その計画もないと言えるんですが、ご存じのように、今年の初めに国の方から、小学校とは、地域には大事だと当然わかってるはずですが、一方で子どもの人数があまりにも少なくなりすぎると子供の教育の面で非常によくはないということが、国の方からも出ています。幼稚園も同じですけど、学校や幼稚園では集団生活を習わせるということがありますので、8人、10人とか、小さいところだと、子供さんの成長過程で、教育として非常に難しい面が出

るというのが国の見解で、すぐに統合しなさいと言うことではないですけど。未来永劫ないと思し上げるのも難しい。何より子どもの人口が減らないように頑張らないといけないと思っていますのと、皆さんの心配は、南浦の小学校も沙美の小学校が、玉南の方に統合されることだと思うんですが、ある程度の子どもさんの通える範囲ということもあると思いますので。文科省方針が今年の1月ぐらいに出されて、以前より統合を進めなさいという方針が出てるんです、簡単に言うと。一方で、その理由と地域のこともよく考えてやらなきゃいけない、ということも出てます。ですので、この時点で、学校の統廃合は教育委員会の専任の仕事になりますので、私が申し上げるのは難しいですが、私としては子どもさんが地域の中で皆さんに囲まれて育っていくというのは非常に大事だと思っておりますし、地域の皆さんが学校に対していろんな協力をさせていただいているのも、大変ありがたいと思っております。さっき県の100万円の話をされました。倉敷市としても、県の100万円について率先して取り組みをするということじゃなくて、よかったら100万をあげるとするのは、考え方としては、本当はちょっとどうかなと思ってます。ただ、県の方が、少ない予算でそれをするんだったら教員の先生をもっと配置をしてもらった方がいいと思ってるんですが、倉敷市としては、なるべく率先して市の単独の支援員の方とかを、小学校のほうに配置をすることを頑張っており、今後も頑張っていこうと思っておりますが、さっき、小さい小学校に優先して付けてもらいたいというご要望をいただきまして、それももちろん頑張ろうと思ってるんですが、大きな小学校の方も先生が足りない状況ですので、そっちの方にもりつけてあげないといけないので、まあ両方やりたいんですが・

私がお願いしたいのが、地域の皆さんからの学校への支援を、沙美や南浦でも、玉島南小でもそうですけど、皆さんが本当に良くやっていただいて、子供さんの面倒を見ていただいているので、ありがたいと思っております。それを引き続き前に進めていただきつつ、学校のいろんな環境を、教員もちゃんと来てもらえるようにするとか、それも頑張っていきたいと思っております。女性のブルドーザーみたいな前向きに進まれる先生ですね。

参加者？さん

文科省の方針も、小規模の場合に統合という方針をだしてるけど、統合しなかったら、工夫すればいいと。工夫することも一理あるんだということで、遠い将来ということは絶対言えませんけど、市長さんの考えとして地域の中にいる子どもは地域の中で育てていくという考えをぜひ、できるかぎり存続していくということを基本的な考え方をもっておられるかどうかということと、市長さんの権限は今度ものすごく強くなりましたよ。教育委員会に対しても。まあそういうことを、お願いしておきます。

市長

地域の皆さんのご協力が一番と思っておりますので。ありがとうございます。

それから、市民憲章のお話をいただき、ありがとうございました。青少年には夢、老人には安らぎのあるあたたかい社会を作ります。この市民憲章、昭和42年に玉島、倉敷、児島が合併して5年の記念の時に、市民の皆さんからいろんな案を出して、作っていただいたのが昭和47年です。今我々いろんな総会で唱和していますが、もう出来てから、43年ぐらいになります。私は、市民憲章としては日本の中でも非常にすごい市民憲章だと思っており、今の、青少年には夢、老人には安らぎを。まだ第1号が、環境の社会ですけ

ど、40年前から、自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境を作りますと、いの一番に掲げてあるのが、本当に40数年前に考えた市民の皆さんの先見、確か5番の、世界に通じる個性ある文化を作りますということを入れているというのがすごいと思うんです。それを今見直しをして、内容の見直しじゃないですよ。市民憲章はずばらしい。でこの中に、先人たちの思いがこもっているというのをみんなで理解していきましょうと言うのを、地域の皆さんや小学校とか中学校とかで、子ども達も唱和をしていこうということに学校でもなって、小学校の入学式、卒業式とかで、唱和をされるようになってきました。自然と子どもたちも、内容が分からなくても覚えて、大人になったら基礎がつく、というのがいいんじゃないかということやっていたらいいんですが、今言われたように、それがどう実行しているか分かるようにした方がいいかなと私も思いました。これが何を実現できたかということじゃないですけど、今市民憲章の中で、個性ある文化をつくり、世界と通じ、個性ある文化を作ります、というのにもとづいて、この施策をやってるんですよと、施策をやっている市役所の方、それを一緒にやる市民の皆さんにわかっていただけるようにしていければと思いますので、全部できるか分かりませんが、すごい市民憲章だと思っておりますので、活かしていけるように頑張りたいと思います。

それからライフライン、下水道、市街化調整区域、まちづくりについてお話をいただきました。ライフラインについて、100年前と全く変わってないということはないと思います。先ほどの幻の県道も、前よりこちらの金光側の方は進んできておりますので。うちも毎年県の方には言っており、県も進めて下さって、土地の買収の交渉などやって下さっております。ただ、相手がいらっしゃることなので、今から5年以内にパッとできますということは、なかなか言えない。海に架かっている橋は、権利者の方が大していらっしゃらないものですから、パッと進むというのがあるんですが、内陸の地面は、それぞれの土地の方がいらっしゃって、そう簡単に進まないんですが、市としてはこの道はとにかく、この南浦も沙美も東西しか道がないわけです。防災の観点でも内陸の方に向けるのは一番安全なので、非常に優先順位も高く県の方をお願いをしておりますので、今後も頑張ってお願いをしたいと思います。頑張りますので、健康で長生きしてください。

それから下水道のお話。市の下水道の計画がご存じのように、市街化区域の方から順番に、人口が密集している地域から、国の方から下水道の許可が出る順番があり、市の密集地域からやるようになっており、まだ、密集地域の所も済んでいない状況でして、こちらの方には来ていないのが現状でございます。その時、合併浄化槽区域になるのか、農業集落排水区域になるのか、車が来て収集する区域になるのかということですが、そこがまだ、地元の皆さんからの要望の部分と、市が実際の所やっけていけるのかどうかということで、検討する状況となります。下水道については、地域の皆さんの要望度も非常に高いというサービスであることは、市の方も認識しております。が、下水道がいつ来るのかということは、さっきの道じゃないんですけど、何年までに来ますと言うことは、まだ言えない状況です。少しでも住民の皆さんの生活環境が良くなっていけるような、合併浄化槽でも集落排水でも、少しでも環境が良くなってゆけるという気持ちは持っております、と言うお返事しかできない状況です。

集落で密集して人口がある程度密集しているところは、自分のところで作られ、そこまで線を持っていきます。市街化区域じゃなくてもそういう方向で検討をしてるんですけど、どうしても密集しているところで、地域の施設を作ります。そこまで線を持ってきてくだ

さい、というのは、今後の方法としてあるかもしれないですね。

ふれあいサロンのこと。大変活動していただいて、ありがとうございます。空き家を使ってと言うのは、まだないですけど、小学校を使ってというのまでは、ないんでしょうか？空き家を放っておいたらいけないんですよという法律も出来、施行されたので、前より、持ち主の方も真剣に考えてくれるような環境になってきたと思うんです。空き家を他へ売られるのか、それとも地域のちゃんとした公共だったら貸してもいいよという仕組みを作る方向もあると思います。そうしたら地域の方が借りていただきふれあいサロンをやっていただくとか。前よりは空き家については誘導的な環境も出来てきたと思いますので、現在空き家を使ってはないですが、考え方としては、いいアイデアと思っております。ありがとうございます。

最後に、子どもさんのメッセージのこと、本社移転の申し込みは、まだないです。この前発表したばかりですが。今の日本の課題は、東京に人が集中してるから、人を地域へ戻すということが必要だと思うんです。東京へ人が集中すると、医療とか介護になったら、ますます地方の人がどんどん東京に吸い上げられてしまい、ますます集中してしまうので、そうならないよう早くから、いろんな働き場所を東京以外の場所へ移してと言うことがあります。今、石川県の小松は小松機械で非常に成功していますので、そういうものを各地方都市でやっていきたいと思っています。私が今回発表したのは、倉敷市ぐらいの中核都市がそういう方策を発表していけば、うちがしたことによって、他の中核都市からかなり問い合わせが来ました。倉敷だけでなく他の中核都市、鳥取でも高松でも大分でも、そういう施策をどんどん出して、真剣に東京の企業の皆さんが、地方へ移転した方が、自分の従業員や会社のためにもいいよと思ってもらえるような施策として、打ちだしました。この施策をもって、いろいろコンビナートの企業さんが、必ずしも東京になくてもいい機能をこちらへ持ってきてもらえるように玉島ハーバーアイランドに土地もありますので、いろいろ誘致活動を進めているところです。

最後に、こども観光大使のメッセージについて、倉敷市のPRをしてもらうのに和服デニムを着てもらったり畳ベリの帯をして、いろいろ工夫をしてもらってありがとうございます。倉敷の美観地区のこと、日本全国で海のないところもありますので、倉敷市の瀬戸内の国立公園は日本で一番最初、昭和9年に、九州の雲仙霧島といっしょに国立公園に指定されたとてもきれいな所。玉島の所も、水島の沿岸の所も、児島の沿岸も非常にきれいな所があります。そして倉敷の美観地区は伝統的建築物群保存地区で、江戸時代からの町並みが残っているところです、というようにいくつかポイントを言ってもらって、そして、美観地区もそうなんです、そこに地元の人たちが住んで活用して多くの人に来ていたことが、私たちのまちの特徴ではないかと思えます。建物だけ残しているのではなく、そこに住んで、児島だったら児島の繊維産業を活用し、ジーンズのデニム産業の新しい時代になっていること、時代に応じて伝統的なものを守りつつ活用していることが、倉敷市の特徴だと思いますし、自分たちのまちのいいところを、全国に向けて発信していくことがすごく大切ということ呼びかけてもらったらと思っています。地方創生の時代が、今年平成27年で、そういうことにもかけて、全国の人に発信してもらったらと思いました。

時間をかなりオーバーしましたが、皆さんが日ごろ考えていただいていることを教えていただきまして、市政に反映していく、県や国の方に話をするときにも、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。